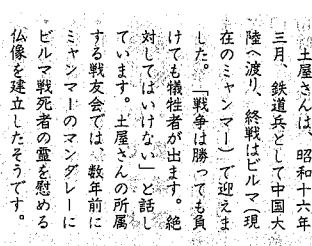


土屋秀作



徒に屍を風雨にさらされ、空しく異境の地に朽ちなるとす。かかるに祖国日本は敗戦のどん底から立ち上がり、二十一年位にして戦前をしのぐ程の復興と再建を遂げ、今日では世界中の國々の羨望する繁栄と平和を享受するに至つたのである。これひとえに英靈の尊き礎の上に築かれたこと、片時も忘れることはない。歲月は流星の如く流れ去り、あの悲惨な戦争が終わつてすでに五十年。幸いに命あつて故國に帰り、日々の生活に追われながらも、平穩に年を重ねてきた。私達も年齡七十五歳を越える今日になつたが、あの頃を想ひ出し、一筆啓上し、戦争の痛々しさを後世に伝えたいものである。

私は昭和十六年三月、現役兵

一期の教育が終わると鉄道兵であつたので、国鉄出身の私は機関士として一年有余運転をした。その後、運がよく中隊本部付を命じられて、終戦まで給与係として勤務した。給与係の責任者として先輩に尊敬の念、同年兵は兄弟分、後輩には愛情の精神で任務を全うした。幸いにし

遺体は近辺に埋めてきたのですが、その遺骸は今どうなっているものやら案じられる。この件今でも時折夢を見る。

敗戦で退却する際、途中の駅

空爆で車両が焼かれ、負傷したことも忘れることができる。このような幾多の体験を思うとき、戦争の空しさがいひしひとき、胸に突き刺さる。私は二、三年前に靖国神社を参拝した。お慰霊の墓に花束を捧げるのに、靖国神社をなぜお参りしないのか、政治問題の身中はよく分かった。親友ではないかと、靖国の宮から帰るとき別れを惜しんで来た。

共に征く 戦友今や 戦場に  
ねむる心地は 我を胸さす

\*

(注)

①大東亜戦争 太平洋戦争をい  
う当時の日本側での呼称。大東  
亜は極東および東南アジアを指  
していた。

②軍曹 旧陸軍の下士官の一つ。  
曹長の下、伍長の上の階級にあたる。

③インパール作戦 第二次世界大戦中、日本軍がインド北東部の都市インパールを包囲しようとした作戦で、最後はイギリス・インド軍に大敗した。



松本さんは、昭和十八年四月、官立富山南船学校に海軍予備練習生として入学。終戦後は、教員としての道を歩みました。「海軍の訓

命名されるものがあり、壇上に  
は当時の舞鶴鎮守府長官大河内  
中将が立ち、一人一人名前を呼  
ばれ起立。厳かに「右の者、  
海軍予備練習生を命ぜず」と一  
言いつとさつと降りてしまつた。  
これだけ言う為、参謀連  
を引連れ、わざわざ舞鶴から  
富山くんだりまで出張されたの  
だった。海軍予備兵長格、これ  
がどれだけ苦しいことになる  
か、知る由もなかった。

伝令の声が鳴り渡る。整列すると「近ごろの貴様等の態度はなつとらん。これから鍛えなおしてやる。頭着ろ！」。三、四時はあろうか、麻呂口がうなりを上げて尻に襲いかかる。その痛さ、気の弱い奴は七、八発で氣を失つてしまう。当直教官にも因るが、時々こんなことがある。その他に、各分隊毎に行われていた。さぞかし、その頃の尻の皮は厚くなつていたのであろう。個人制裁なるものは滅多になかったが、何事も連帯責任、誰かがへまをやる、「整列！日頃たるんでるからこう

(新金沢町)

いうことになるんだ！足開け！歯を喰いしばれ！」、鉄拳が頬に炸裂する。歯の噛み合わせが悪いと、歯が欠けてしまう。翌朝の味噌汁の沁みること、やつとの思いで食事を済ます。何度も止めようと思ったことか。

第一校舎の樋口校長を表敬訪問した。どうしても高等科生徒に講演しろという。固辞したのであったが、「一週間の猶予をやるから」とまで言われ、覚悟をきめた。「これからすぐやります」と言ってしまった。何をし

一時間半程しやべつてしまった。  
今、六五、六才の人で退屈した  
覚えの人は居ないだろうか。

徒が「手紙を出してもいいですか」と言ってきた。別に禁止されている訳でもないのに、住所を書いて渡した。帰校後、その人から、「どんなにつらいことかあつて、頑張ってください。私も頑張ります」と、全く純粹というか純情というか、励ましの手紙が続いた。ところが意地の悪い武官（海軍大尉）が

あなたの声をお聞かせください

戦争体験手記を読んだの感想などをお聞かせください。なお、皆さんから寄せられたものは冊

子に掲載しまして、執筆者にメ  
ッサージを送る形をとらせてい  
ただきます。

□送付先 新津市企画調整課広  
報秘書係(☎956 新津市程  
島2009番地、☎24-211  
1内線331)へ。

お買物、ご用命は市内で

お買物、ご用命は市内で

♥人々との交流基地♥  
**文化スペース カルチャーくらぶ**  
 10月は10周年特別月間  
 レッスン無料・入会金免除  
 ■本町教堂(栄町イウラ2階)  
 ■駅前教堂(駅前旧バスターミナル南三軒ビル3F)  
 TEL (23) 3192  
 FAX (23) 3882

♡おかげさまでこの秋で10周年。次のステップに向かって身も心もリフレッシュ！

**NCCO 文化クラブから NCCO 文化スペース カルチャーくらぶ**へ。

【趣旨】 定義があいまいで古めかしい匂いする文化クラブから、軽やかで親しみやすいカルチャーくらぶ。へと変身し、明るい教室づくりをめざします。

書道ペン字  
 フラワーデザイン



